

定期予防接種について

種類の異なるワクチンの受け方
 【生ワクチン】接種後 →27日以上あける
 【不活化ワクチン】接種後 →6日以上あける

お誕生日
 平成 年 月 日

※ 予防接種の分類は、平成30年4月1日現在のものです。

下呂市版

月齢ごとの日付をいれましょう

定期の推奨接種開始時期
 接種可能な期間（国が決めている接種可能期間）

1 予防接種の種類	2 どんな病気？	3 ワクチンの効果は？	ワクチンの種類	4 受け方 計画は、かかりつけ医と相談しましょう。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳		
					回数	効果的な接種時期と間隔																		
インフルエンザ 菌b型 (ヒブ) 感染症	インフルエンザ菌b型という細菌による病気で、インフルエンザウイルスとは全く別もの。ヒブ感染症は、中耳炎や気管支炎、髄膜炎のような重い病気をおこす。ヒブ感染症による髄膜炎は、5歳未満では、10万人に約7~8人、年間で約400人が発症し、そのうち、約1%が予後不良とされている。生後4か月~1歳までの乳児が過半数を占める。	欧米では、予防接種開始後、重症感染症は劇的に減少。ヒブの抵抗力は、3歳以上で急速に上昇する。	不活化	接種期間：生後2か月~5歳の誕生日前日まで	1	2	3									4								
				4回 接種開始が生後2か月~7か月に至るまでの場合 27日以上の間隔をあけて生後12か月に至るまでに、3回接種。3回目終了後、7か月~13か月の間隔をあけて1回追加。 ■初回2回目および初回3回目が生後12か月に至るまでに終了せず、1歳以降に追加接種をする場合は、初回1回目または、2回目終了後27日以上あけて追加接種。	27日以上 27日以上	7か月以上 (7~13か月未満)	追加(年 月 日)																	
				3回 接種開始が生後7か月~12か月に至るまでの場合 27日以上の間隔をあけて2回接種。2回目終了後、7か月~13か月未満の間隔をあけて1回追加。	27日以上	7か月以上 (7~13か月未満)	追加(年 月 日)																	
小児の肺炎球菌感染症 (13価ワクチン)	肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に持っている。ときに中耳炎や重い髄膜炎などを起こす。肺炎球菌が原因の化膿性髄膜炎は、5歳未満では、10万人に約2.5~3人、年間で150人前後が発症しているとされている。死亡率や後遺症は、ヒブ感染症による髄膜炎より高く、約21%が予後不良。	予防接種開始後、多くの国から、細菌性髄膜炎が激減したという報告がある。	不活化	接種期間：生後2か月~5歳の誕生日前日まで	1	2	3									4								
				4回 接種開始が生後2か月~7か月に至るまでの場合 27日以上あけて生後24か月に至るまで(標準的には、生後12か月に至るまで)に3回接種。3回目終了後、60日以上(標準的には1歳~1歳3か月)あけて1回追加。 ■初回2回目が生後12か月を超えた場合は、3回目の接種は行わない。追加接種はできる。	27日以上 27日以上	60日以上	追加(年 月 日)																	
				3回 接種開始が生後7か月~12か月に至るまでの場合 27日以上あけて生後24か月に至るまで(標準的には、生後12か月に至るまで)に2回接種。生後24か月を超えた場合は接種は行わない。追加接種はできる。	27日以上	60日以上	追加(年 月 日)																	
B型肝炎	B型肝炎ウイルスの感染者は約100万人(100人に1人)とされている。B型肝炎に感染し、慢性肝炎になると長期にわたる治療を要し、最悪の場合肝硬変や肝臓がんなどの命にかかわる病気を引き起こす。	接種者の70~90%は抗体を獲得し、効果は数年~10年持続する。	不活化	接種期間：生後12か月に至るまで	1	2																		
				3回 接種期間：生後2か月~5歳の誕生日前日まで 生後2か月から開始 27日間隔で2回目、1回目の接種から139日後に3回目を接種する	27日以上	139日以上(約5ヵ月)	追加(年 月 日)																	
				1回 接種開始が1歳~2歳誕生日に至るまでの場合 60日以上あけて、2回接種。	60日以上		追加(年 月 日)																	
ジフテリア 百日咳 破傷風 急性灰白髄炎 (ポリオ)	ジフテリア菌がのどに炎症を起こす病気。重症になると呼吸困難などをおこし死亡することもある。 百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症である。母親からの免疫が期待できないため、乳児期早期からかかり、とくに生後6か月以下では死に至る危険性も高い。 急性灰白髄炎(ポリオ)は、ポリオウイルスにより、胃腸炎などを起こす。1000人~2000人に1人麻痺を起こし、後遺症が一部残る場合がある。 破傷風菌は、土の中にいて、傷などから体内に入る。神経を傷め、痙攣をおこす。後遺症や死亡することもある。	予防接種を受けた人が受け取らないより90%発症を防げた。一定の抗体獲得あり。 予防接種の効果で日本での発症報告なし。生ワクチンから不活化になったが、麻痺性ポリオは90%予防有効。初回から10~15年免疫保持。 追加接種後10年持続、11~12歳頃、追加接種が必要。	不活化	I期 接種期間：生後3か月~7歳6か月に至るまで 初回1回目から3回目までを20日以上の間隔をあけて生後12か月までに接種。6か月以上(初回終了後12~18か月未満が標準)あけて1回追加接種。	1	2	3										4							
				4回	20日以上 20日以上	(初回終了後、12~18か月未満)	追加(年 月 日)																	
				II期 1回 接種開始が1歳以上13歳未満 (標準的な期間は11歳に達した時期から12歳に至るまで) 二種混合(ジフテリアと破傷風)を追加接種	60日以上	1歳以降で実施	追加(年 月 日)																	
BCG	結核の予防接種。結核菌による空気感染で、肺から入り、肺結核などを起こす。予防接種を受けていない乳児が感染すると、病気の発症はやく、結核性の髄膜炎など重症になりやすい。	感染を受けても、予防接種を受けていない人の1/4に発症を抑える。重症化の予防には極めて効果的。効果は10~15年。	生	接種期間：生後12か月に至るまで 生後5か月に達した時~8か月に達するまでの期間が望ましい	1																			
				1回																				
麻疹風しん (MR)	麻疹は、麻疹ウイルスによる感染。免疫力を落とすので、症状が重く、他の感染症にもかかりやすくなる。 風しんは、風しんウイルスによる感染。問題なく治ることが多いが、まれに脳症などが起こる。	接種者の95%は抗体獲得し、長期に持続する。 接種者の95%は抗体獲得し、20年近く持続する。	生	I期 接種期間：生後12か月~生後24か月に至るまで 1歳の誕生日を迎えたら早めの接種が望ましい	1																			
				2回 II期：5歳~7歳未満のうち、就学前年度に接種																				
水痘	水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる感染力が大変強い病気。発疹と発熱が症状。38度を超える熱が2~3日続き、体に虫さされのような赤い斑点が出てくる。1日くらいで水ぶくれになり、全身に広がる。強いかゆみもある。多くの場合それほど重くないが重症化することもある。0歳と15歳以上が重症化しやすい。	1回の接種で80~90%は抗体を獲得する。1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。	生	接種時期：生後12か月から生後36か月に至るまで 1回目の接種は生後12か月~15か月に至るまで。2回目は、1回目終了後3か月以上(標準は、6か月~12か月まで)あけて接種。	1	2																		
				2回	3か月以上 (標準は6か月~12か月未満)	追加(年 月 日)																		
日本脳炎	日本脳炎ウイルスに感染すると、うち100人~1000人に1人が脳炎を発症します。脳炎になると、死亡率は20~40%、後遺症を残す場合も多い。最近年間10人以下の発症。	接種後80%は発症を阻止すると推定。初回2回と追加1回接種で基礎免疫を獲得しておくことが大切。その後も5~10年毎の追加接種が望ましい。	不活化	I期 3回 接種時期： I期：生後6か月~7歳半に至る前日まで 初回は、標準は3歳に達したときから4歳に達するまでに、6日(標準的には6日~28日)以上あけて2回接種。 追加は、初回接種終了後6か月(標準的には概ね1年)以上あけて1回 II期：9歳~13歳未満の間に1回	1	2	3																	
				1回	6日以上 (標準は6日~28日)	追加(年 月 日)																		

日本脳炎流行地域に渡航・滞在する小児は6か月より接種可能です。接種希望の方は保健センターに相談ください